



長良川9.12豪雨災害 50年シンポジウム

～今、9.12豪雨災害の危機が訪れたら、どう動く？～

昭和51(1976)年、岐阜県安八町での堤防決壊などにより長良川沿いに広く浸水被害をもたらした「長良川9.12豪雨災害」から、今年で50年。

その時の経験と教訓を風化させず、次世代への教訓とするため「～今、9.12豪雨災害の危機が訪れたら、どう動く？～」をテーマに自分事として考えるシンポジウムを開催。

開催概要

- 日 時:令和8年9月12日(土) 13:30～16:00
- 会 場:じゅうろくプラザ
- 参 加:約600人
(サテライト会場:ハートピア安八 約50人)
- 主 催:木曽川水系流域治水協議会
- 後 援:公益社団法人 土木学会中部支部
一般社団法人 中部地域づくり協会



開会挨拶

岐阜市長 柴橋 正直 氏



- ・水害の記憶を風化させず、次世代へ継承することが重要。
- ・治水が進む一方、気候変動で水害リスクは変化。
- ・地域で災害に強いまちをつくるため、考え備える機会としたい。

安八町長 岡田 立 氏



- ・長良川堤防の決壊と、濁流の惨禍は忘れられない。
- ・想定を超える豪雨が頻発し、水害は過去の脅威ではない。
- ・水害を自分事として捉え、備えを見直す機会にしてほしい。

当時の体験談

元岐阜市水防協会会長 戸本 敏夫 氏



- ・鳥羽川の堤防が蛇行しているように見え、「堤防は水によって動く」ことを初めて知った。
- ・水防団だけでなく地元の住民全員が力を合わせて動けることが大事であることがわかった。
- ・被災経験を若い人たちに伝え、今後の水防に尽力したい。

元安八町立結小学校 金森 透 氏



- ・中学時代に友人の父がこの水害で亡くなった。
- ・牧地区はお寺の畳を横向きに並べて浸水を防いだ。
- ・防災教育を学んだ子供たちが将来、地元を離れ、全国様々な災害に対し応用していける。

基 調 講 演

名古屋大学名誉教授 辻本 哲郎 氏



- ・人間活動による温暖化に伴う気候変動により豪雨が激甚化・頻発化している。
- ・流域開発によって雨が川に集まりやすく、治水・雨水排除施設への負担が増えている。
- ・豪雨災害は、社会現象の変化によって被害が拡大する自然災害ともいえる。
- ・国土強靱化、水防災意識社会の構築、内外水の一体化、避難に関わる情報制度の見直し、官民、組織、個人問わず「by all」の精神で水防災に取り組むことが重要である。

防災教育の取り組み／羽島市立桑原学園 学園生



5年生 森川 結月 さん
6年生 岡田 英琉奈 さん
7年生 山北 実侑 さん
8年生 寺本 野々花 さん
9年生 浅野 亜実 さん

- ・桑原学園の「防災減災を学ぶ日」に、【知る】【体験する】【考える】【行動する】を実践している。
- ・異年齢縦割りを活用し、他学年同士が理解しあって学びの中で【共助】の姿を自然と高めている。
- ・災害、防災について知ることだけでなく「自ら考え判断して行動すること」を大切に今後も学びを深めていく。

パネルディスカッション



- ・岐阜市長 柴橋 正直 氏
岐阜市水防団員の減少に対し、啓蒙や環境改善等を実施。災害を自分事化できるアプリを開発。
- ・大垣市長 石田 仁 氏
多層的な治水強化を進めている。地域は自分たちで守るという輪中文化を通じ、市民の防災意識を高めたい。
- ・羽島市長 松井 聡 氏
水防団・消防団のOBによるサポート制度を整備。約330名の防災コーディネーターが活躍。
- ・安八町長 岡田 立 氏
昨年、9月12日を「安八防災の日」に定め、防災意識の向上に努めて自助、共助の精神を高めていく。

- ・岐阜地方気象台長 土井内 則夫 氏
早い段階で情報を取得し、レベルに合わせた適切な避難行動を。
- ・NHK岐阜放送局チーフアナウンサー 村竹 勝司 氏
「呼びかけ」を重視したアナウンスを発信。情報を自分から取る行動が重要。
- ・岐阜県県土整備部 河川課長 池田 大介 氏
流域の特性に応じた流域治水を進め、自助・共助を育む地域主導の取組を支援していく。
- ・木曽川上流河川事務所長 貴家 尚哉 氏
河川管理者だけでなく、流域関係者一体となって流域治水を進めることが重要。
- ・コーディネーター 名古屋大学名誉教授 辻本 哲郎 氏
50年前の災害を過去のものとして、今、同じ危機が訪れたとき自分はどう行動するかを考えるきっかけになったと信じます。